

平成22年7月16日

財団法人 ヒューマンサイエンス振興財団
カルナバイオサイエンス株式会社

財団法人ヒューマンサイエンス振興財団とカルナバイオサイエンス株式会社との

「抗癌剤スクリーニング方法」のライセンス契約締結に関するお知らせ

このたび、財団法人ヒューマンサイエンス振興財団 厚生労働大臣認定 TLO ヒューマンサイエンス技術移転センター (HSTTC) とカルナバイオサイエンス株式会社 (以下、「カルナバイオサイエンス」という) は、独立行政法人国立がん研究センター (以下、「国立がん研究センター」という) の発明「抗癌剤のスクリーニング方法」の出願特許に関するライセンス契約を締結いたしましたので、お知らせいたします。

この契約により、カルナバイオサイエンスは、当該発明の日本国の通常実施権を取得いたしました。

このたび実施許諾の対象となった本発明は、大腸ガンの多くの症例においてβ-カテニンと細胞因子-4 (TCF4) のシグナル伝達経路に活性化がみられていることから、本シグナル伝達経路が関与するガンに有効な抗ガン剤のスクリーニングに関する技術です。本スクリーニング技術を用いることにより、β-カテニン/TCF4 転写複合体の異常な転写活性化に寄与している TNIK というキナーゼを阻害する化合物を効率的に選択することができ、大腸ガンに有効な新規分子標的治療薬の開発が可能となります。

今回の契約により、カルナバイオサイエンスの有するキナーゼに特化した創薬基盤技術および創薬技術で創出された新薬候補化合物群の中から、ガンに対してより効果の高い化合物を選択することが可能となり、カルナバイオサイエンスと国立がん研究センターとの共同研究 (平成20年6月16日付、カルナバイオサイエンスのプレスリリース参照) が、今後、より円滑かつ迅速に進捗することが期待できます。

1. 用語解説

TNIK : Wnt シグナル伝達経路に重要な役割を果たしているキナーゼであり、カルナバイオサイエンスは、現在、自社の優れたキナーゼ創薬技術を用いて日本発の画期的な大腸ガン治療薬の開発に取り組んでいます。大腸ガンは、生活習慣の欧米化が進んでいるため、その患者数が近年増加傾向にあり、日本国内だけでも毎年4万人以上が大腸ガンで死亡しており、新たな治療薬の開発が望まれています。大腸ガン患者の8割以上は、Wnt シグナルと呼ばれる経路に存在するAPC (adenomatous polyposis coli) ガン抑制遺伝子に変異があることが知られています。このAPC 遺伝子の変異によって、下流のβ-カテニンの分解に異常が生じ、その結果、蓄積したβ-カテニンが遺伝子の転写活性化をもたらすことでガンを引き起こすと考えられています。これまで世界中の研究機関がWnt シグナル伝達経路を遮断する薬の開発を目指してきましたが、有効な標的分子を見出すことができませんでした。

2. 厚生労働大臣認定TLO ヒューマンサイエンス技術移転センター(HSTTC) の概要

HSTTC では、厚生労働省の支援のもとに同省所管の国立試験研究機関等(14機関)の研究成果が活用され、社会に還元されることを目的として、特許出願、権利化、特許の維持・管理を行ない、当該特許権等に基づき登録会員企業を含む民間企業等へマーケティング及びライセンスを行っております。現在までに、基礎段階のものから実用化直前のもので、また、治療剤・予防剤・診断薬のみならず医療機器・介護用具や労働災害防止装置まで幅広い分野から420件を超える発明を出願中です。

ウェブサイト <http://www.jhsf.or.jp/>

3. カルナバイオサイエンスの概要

- (1) 名 称： カルナバイオサイエンス株式会社
- (2) 代 表 者： 代表取締役社長 吉野公一郎
- (3) 所 在 地： 神戸市中央区港島南町1丁目5番5号
- (4) 設立年月日： 平成15年4月10日
- (5) 事 業 内 容： キナーゼ阻害薬の創薬基盤技術を用いた製品・サービスの販売（創薬支援）
および医薬品の研究・開発（創薬）
- (6) ウェブサイト： <http://www.carnabio.com>

【本件に関するお問い合わせ先】

厚生労働大臣認定TLO ヒューマンサイエンス技術移転センター
担当者 技術主幹 吹田 修
TEL：03-3663-8641

カルナバイオサイエンス株式会社
経営管理本部 経営企画部 IR担当
TEL：078-302-7075